

20 年前のご恩返し

東日本大震災被災地での炊き出し支援

8月27～29日の3日間、東日本大震災被災地を支援する目的で、「在京者による東日本大震災救援対策本部（田代則春本部長）」と島原市・雲仙市・南島原市が連携し、陸前高田市（岩手県）・南三陸町（宮城県）・福島市（福島県）で炊き出しを行いました。

この事業は、20年前の雲仙・普賢岳噴火災害時に受けたご恩に応えるために行われたもので、関東在住の半島出身者のほか、3市関係者など約40人が参加し、被災地の皆さんに島原半島の味を振る舞いました。

東日本大震災被災地児童・生徒招致事業

「在京者による東日本大震災救援対策本部」と島原半島3市が連携し、岩手・宮城・福島の各県から約100名の小・中学生を島原半島に招待します。

島原市では、本年12月27日～30日の3泊4日、岩手県陸前高田市の小学6年児童・保護者30名を招待し、島原の子ども達との交流や、島原半島ジオパーク・市内外の観光スポットを案内し、楽しい思い出づくりと心のケアを支援します。

また、28日午前9時から同対策本部と半島3市の主催により、被災地の子ども達約100名、地元の子供達70名が参加して、交流会が開催されます。



炊き出し支援出発式



炊き出し会場の後方は津波で壊された建物が残る



晴天にも恵まれ、多くの人々が来場



長崎 W スーパーパーク井をはじめとした料理が振る舞われました